あきる野を愛した 歌の詠み人

三ヶ島葭子（よしこ）（1886年～1927年）

画像提供：所沢市生涯学習推進センター

歌人。明治19年（1886年）8月7日、埼玉県入間郡三ヶ島村（現埼玉県所沢市）に生まれる。東京府西多摩郡小宮尋常高等小学校（現小宮ふるさと自然体験学校）に教員として勤めながら、「女子文壇」「青鞜」「スバル」等に短歌を発表。平塚らいてうや与謝野晶子との交流を通じて6千首の歌を残した。

水原秋櫻子（しゅうおうし）（1892年～1981年）

画像提供：水原康子

俳人、医師。本名は豊。明治25年（1892年）10月9日、東京市神田区猿楽町（現東京都千代田区神田猿楽）に生まれる。松根東洋城、高浜虚子らに師事した後、俳句雑誌「馬酔木（あしび）」を主宰し、独自の俳句活動に入る。医業の傍ら、印象派絵画のような美しく清新な俳句を数多く残した。

※参考文献「水原秋櫻子の世界」

三遊亭歌笑（かしょう）（1917年～1950年）

画像提供：中日新聞社

落語家。本名は高水治男。大正6年（1917年）9月22日東京都西多摩郡五日市町小中野（現あきる野市小中野）に、高水製糸工場の次男として生まれる。好きな落語で身を立てようと決意し上京。三遊亭金馬、三遊亭円歌に師事する。戦後の昭和20年（1945年）には自作の落語「純情詩集」を発表し、リズミカルな口調、新しいセンスで一躍人気者となった。

※参考文献「昭和の爆笑王 三遊亭歌笑」

中西悟堂（ごどう）（1895年～1984年）

画像提供：金沢ふるさと偉人館

野鳥研究家で歌人・詩人。明治28年（1895年）11月16日、石川県金沢市に生まれる。昭和9年に野鳥の会を創設し、自然保護に尽力した。また、歌人・詩人としても知られている。戦後からの約10年間を西多摩郡東秋留村二宮（現あきる野市二宮）で過ごし、村民の依頼で盆踊りのための唄を作ったり、東秋留小学校の校歌を作詞しており、現在も歌い継がれている。

※参考文献「父・悟堂」

金田一春彦（1913年～2004年）

撮影：立木義浩

資料提供・協力（敬称略）

国語学者。大正2年（1913年）4月3日、言語学者金田一京助の長男として東京市本郷森川町（現東京都文京区本郷）に生まれる。東京大学大学院修了。専攻は国語学。日本語研究の第一人者と言われた。主な著作に「日本人の方言」「日本人の言語表現」「平曲考」などがある。辞書の編さんも多い。

あきる野 立ち寄り風土めぐり

① 徳雲院

臨済宗建長寺派。季節になると梅や桜などの花木が境内を彩り、夏にはホタルの乱舞が見られます。また、五日市七福神の寿老人が祀られており、見どころの一つとなっています。

所在地 乙津511

② 秋川渓谷 瀬音の湯

自然豊かな秋川渓谷と緑豊かな山々に囲まれた温泉。アルカリ度が高く「美肌の湯」としてリピーターが多い。宿泊用のコテージや和食レストラン、無料の足湯などもあり一日楽しめます。

所在地 乙津565　**問合せ** 042-595-2614

③ あきる野ふるさと工房

東京都の指定無形文化財である軍道紙（ぐんどうがみ）の紙すき体験や販売を行っています。

所在地 乙津671　**問合せ** 042-596-6000

休館日 4月～9月 火曜・水曜、10月～3月 土曜・日曜
※臨時休館あり

④ 戸倉しろやまテラス

旧戸倉小学校を活用した滞在型観光施設。旧職員室を改修した木の温もりあふれるレストラン食飲室（しょくいんしつ）の「思い出の給食プレート」がおすすめ。また、団体では多摩産材を使った二段ベッドの客室への宿泊や農業体験なども可能です。

所在地 戸倉325　**問合せ** 042-595-1234　**開館時間** 10時～17時（レストランは11時30分～14時）　**休館日** 火曜（祝日の場合は翌日）※7月21日～8月31日は無休、年末年始（12月28日～1月4日）

⑤ 佳月橋

城山を背景とし、新緑や紅葉が川沿いを彩ります。穏やかな川の流れと木々の美しさを楽しめる名所です。

所在地 小中野、小和田地区

⑥ 五日市郷土館

五日市憲法草案の関係資料をはじめとする五日市地域の貴重な資料の展示や、敷地内にある市指定有形文化財「旧市倉家住宅」を見学することができます。

所在地 五日市920-1　**問合せ** 042-596-4069

休館日 月曜（祝日の場合は翌日）・年末年始（12月27日～1月4日）

■お問合せ　あきる野市環境経済部
観光まちづくり推進課
電話：042-595-1135

■発行年月　初　版　平成29年3月
第2版　令和3年11月

森っこサンちゃん

あきる野 歌碑めぐり

佳月橋上流

あきる野歌碑めぐりの路

あきる野市の中でも、秋川渓谷周辺は自然と歴史の調和がしみじみと感じられる地域です。あきる野に縁の深い「5人の歌碑」と、近代日本の足跡のひとつ「五日市憲法草案の碑」をたどり、歌人たちが想いを馳せたあきる野の空気に触れてみませんか。

三ヶ島葭子歌碑

所在地 徳雲院（乙津511）

筏組む 木の音冴えて 水ませる
あさけのたにに 鶯の鳴く
三ヶ島葭子

徳雲院の境内にある歌碑は小宮地区の方々が、地域の文化向上などを目的に、三ヶ島葭子を後世に伝えたいという思いから、平成21年（2009年）3月に建立されたもの。

水原秋櫻子句碑

所在地 あきる野ふるさと工房（乙津671）

屋根に来て かがやく鶯や 紙つくり
秋櫻子

この句は昭和29年（1954年）の早春、当時、疎開先の八王子に住んでいた秋櫻子が当地を訪れ、紙漉きを見学したときのことを詠んだもので、「雪解けの村一秋川の奥にて」という題がついている。あきる野ふるさと工房の敷地内にある句碑は平成3年（1991年）に建立されたもの。

三遊亭歌笑記念碑

所在地 黒茶屋遊歩道内（小中野167）

豚の夫婦
豚の夫婦がのんびりと 畑で昼寝をしてたとさ
夫の豚が目をさまし 女房の豚に言ったとさ
今見た夢はこわい夢 俺とお前が殺されて
こんがりカツにあげられて みんなに食われた夢を見た
女房の豚が驚いて あたりの様子を見るならば
今まで寝ていたその場所は キャベツ畑であったとさ

三遊亭歌笑が作ったこの詩は彼の代表作と言っていい作品であり、ほのぼのとした温かさとユーモアを持った詩は、当時、子どもたちまで覚えて言うことができるくらい多くの人々の間に広まった。

生家のあった敷地内に建てられている記念碑は、歌笑をモデルにした昭和38年（1963年）の映画「おかしな奴」で歌笑役を演じた渥美清の筆によるもの。

中西悟堂歌碑

所在地 戸倉しろやまテラス（戸倉325）

青山の 幾起伏しの ゆるくして
筒鳥きこゆ その一つより
悟堂

この歌は、昭和23年（1948年）に発表された歌集「安達太良（あだたら）」の中の一句で、三頭山に向かう途中で詠んだ一首。野鳥の生態を研究する目的でよく山歩きしていた悟堂は多摩の山々をとても愛していた。戸倉しろやまテラスのグラウンド脇にある歌碑は、当時、愛鳥教育モデル校であった戸倉小学校へ地元からの寄贈を受けて、昭和63年（1988年）に建立されたもの。

金田一春彦歌碑

所在地 佳月橋の脇（小和田地区）

いつか いちどは 来たいと思うた
見ても見あきぬ あき川に
金田一春彦

この歌は春彦が秋川渓谷の小和田辺りに数回にわたり訪れていた頃の昭和40年（1965年）、秋川の美しさにちなんで詠んだ。

佳月橋の脇にある歌碑は、国語学者の春彦にちなんで本の形をしたデザインとなっており、平成29年（2017年）3月にあきる野市が建立した。

五日市憲法草案の碑

所在地 五日市中学校（五日市400）

「五日市憲法草案※」を後世の人々に広く知ってもらうため、起草者である千葉卓三郎生誕の地の宮城県栗原市、活躍の地であるあきる野市、墓所のある仙台市の3か所に同時に設置された。碑は五日市中学校敷地の一角にあり、代表的な条文が記されている。

※五日市憲法草案　明治自由民権運動期の私擬憲法草案。当時の憲法草案としては条文が非常に多く、国民の権利を守る規定が多く書かれ、現在の憲法にも相通ずる点があるのが特徴。